

南アルプス市立豊小学校 令和元年度前期学校関係者評価書

令和元年9月13日
豊小学校学校関係者評価委員会
委員長 梅本 澄雄



【第2回 学校関係者評価委員会】

- 1 実施日 令和元年9月13日（金）午後4時15分から午後5時30分まで
- 2 会場 豊小学校校長室
- 3 参加者

(1) 学校関係者評価委員（都合により1名欠席）

NO	氏名	役職	備考
1	野澤 正樹	豊地区自治会会長（地域代表）	副委員長
2	齊藤 尚子	元本校校長	
3	梅本 澄雄	豊地区教育振興会会長 元本校校長	委員長
4	津久井豊徳	市教育長職務代理者 元楡形中学校校長	
5	花輪 絹子	豊地区主任児童委員	
6	鶴田 恭子	P T A会長（保護者代表）	

(2) 学校職員（3名）

NO	氏名	役職	備考
1	名取 広行	校長	本校在籍1年目
2	井上 武人	教頭	本校在籍1年目／事務局
3	丸山 哲也	教務主任	本校在籍11年目

4 学校から提案された内容

- (1) 教職員による前期自己評価アンケートの状況
- (2) 学校生活に関する前期児童アンケートの状況
- (3) 豊小学校前期自己評価書（アンケートの分析及び改善方策について）

5 協議内容・意見

○豊小学校前期自己評価書に対する考察

（教職員・児童アンケートの考察／改善方策に対する検証）

(1) 教育目標について

- ・教職員間において、学校教育方針の共通理解を図り、組織「チーム豊」として教育活動・学校運営に励んでほしい。
- ・学級力アンケートに取り組むことにより、その学級の取り組むべき項目が視覚的に確認できることで、「こうしたクラスを作っていこう」という目標になる。今後もこうした取り組みを継続して行ってほしい。

(2) 学校経営・組織について

- ・学校教育目標に関しては、あらゆる機会に教職員・子ども・保護者に連絡しており、具体化されてきている。
- ・保護者の方々にも危険性をわかってもらうことも必要。社会で起きている理由なき殺人などもネット社会の弊害である。一つの学校だけで解決できることではないが、子どもたちがそうした弊害を自覚できるような力（生きる力の一つ）を付けていくことが必要である。
- ・便利なものには、その反面に危険性が潜んでいる。こうしたものを利用する子どもたちを健全に育てていくことが課題である。こうした課題は教師ばかりでなく、保護者と共有していかなければならない。

(3) 学習指導について

- ・児童アンケートを見ると、「授業がわかるか」「先生はわかりやすく勉強を教えてくださいか」「学校が楽しいですか」の項目については一番の基本の部分だが、とても高い評価だ。子どもたちの自主学習ノートを校長に提出し、励ましの言葉をもらうことでも、やる気を起こさせる大きなきっかけとなっているのではないか。

(4) 道徳について

- ・道徳授業を参観したとき、「友だちの良いところを書こう」という内容の学年があった。友だちに良いところを書いてもらう事で、自分の事を見ていてもらえると思えることで、自己肯定感や自己有用感が高められる一つのきっかけになったのではないか。
- ・人の話を最後まで聴いて、理解して、それに対して自分の意見を言う、といことは難しいことであるが、話すことや聴くことに重点をおいた指導を行っていることは評価できる。

(5) 特別活動について

- ・切子では、保存会の方々を中心になって指導してくださっているおかげで、子どもたちに伝統文化の良さを伝えてもらっている。また養蚕も長年続けてきており、生き物を育てていく中で心が育まれている。こうした文化を取り入れた教育を行っていることは、大きな地域の特色であり、誇れるところである。

(6) 学校行事について

- ・ねらいを明確にし、理解させ、普段の生活や学習で得たことを明日の生活に活かせる行事をつくり、児童の達成感や成就感につなげてほしい。振り返り・総括をていねいにしていく必要がある。次につながる活動を心がけてほしい。

(7) 生徒指導について

- ・自己肯定感を高めるような取り組みが大切。教職員に褒められても、自分の良いところをなかなか見つけ、認識することができない。子どもたちができることを保護者にも分かってもらう事が大事であると同時に、友だち間のなかでも、できることが言い合えるような関係ができていくとよい。子どもたち同士がお互いを知り合える取り組みの一つとしてアドジャンにも取り組んだり、温かい言葉が交わせるよう、ソーシャルスキルを行ったりしていくことが大切である。
- ・教師が子どものことをきちんと見て発する言葉がけが大事である。
- ・その子の具体的な行動や言動について褒められるよう、あらゆる場面で教師がしっかり子どもの姿を把握することが大切である。どの子にも、活躍できる場面をたくさん作ることも大事。言葉には「温度」がある。

(8) 生活指導について

- ・「あいさつは相手の目を見て大きい声で言う。」という最終目標に向け、取り組んでいることが素晴らしい。人間関係を作るのは挨拶が大きな要因。最終目標に向け、スモールステップで教職員が取り組んでいる姿が見られた。家庭での挨拶も大切。家を出るときに一声かけることで、挨拶ができる子を育てることにつながる。

(9) 勤務について

- ・学校として管理職を中心に取り組みを行ってはいるが、様々な研修や調査など、まだまだ多忙化の要因となっている者がある。行政レベルでも取り組んでくれているとは思いますが、取り組みやすいところから改善を図ってほしい。